Alex Craig

JAPN 320SL

Final Essay

サービスラーニング・ファイナルエッセイ

1. アクティビティーの概要

クラスでは、主にお月見やお正月など、日本独特の休日や伝統について焦点を当て、日本の人々がどのように休日や伝統を祝うかを体験させました。また、それぞれの名前の読み書きなど、基本的で、日常的な日本語（おはよう、こんにちは、さようならといった基本的な挨拶や、物の数え方、ひだり、みぎなどの方向、色の名前など）を、さまざまな活動をとおして教えました。たとえば、方向は、伝統的な「ふくわらい」のほかに、ウサギのからだをつかって、ともだち同士で助け合って正しく体の部分をつけられるかどうか遊びながら学べるようにしました。色は、特定の色のおりがみを選んで、ネコやイヌを楽しみながらつくれるようにしました。私は、日本という文化に触れることのないこどもたちが、これらの活動を通じて、視野を拡大するのに非常に役立ったと思います。

2. 学んだこと

ステレオタイプや偏見といった、他の民族に対する否定的な見方を排除するためには、これらのこどもたちのように、若いときから他の文化について教えることが重要です。私は教えはじめて間もなく、こどもたちが、目が細いアジア人の目をまねようと、目を閉じたりして日本人や中国人に対する固定観念がすでに形成されていることに気づきました。これらの偏見は、こどもたちが触れるさまざまなメディアによって、またはこどもたちの家族から影響されたものである

と思っています。いずれにせよ、偏見的な意見や言葉は、人の気持ちを害することにつながるので、CPYプログラムなどの機会を通じて、他の文化に触れることは非常にこどもたちの今後の人格形成にも役立つことだと思います。

私はまた、こども全員を喜ばせることはとても困難な作業であることを学びました。特に、１クラス１７人のこどもを見ることは難しかったです。私はもっとこどもたちを、活動のなかでほめてあげたり、認めてあげることができなかったので、申し訳なく思っています。というのは、こどもたちが日本の文化を学ぶと同様に私たちがヒスパニック文化を学ぶことも望んでいたからです。私たちのクラスは、ほとんどのこどもたちがヒスパニック系で構成されていたため、こどもたちはスペイン語の単語やフレーズを使用することにも熱心でした。私がこのクラスを通して学んだことは、日本文化に興味を持たせることと同じくらいに、かれらの文化を認識・理解することも、非常に大事だということです。私たちは教師として、私たちの学生の文化も受け入れなければなりません。

3. 学習の成果

世界のすべての社会的・民族的グループは、社会的特権と疎外を経験します。あるグループは他のあるグループよりも、差別的な状況にあります。アメリカでは、主に白人グループが社会的権限を持っています。私たちが教えた小学校では、こどもたちの大半はこの社会において少数派であると考えられます。彼らはヒスパニック系であるという点で疎外されており、それは、生活していくために白人グループよりも努力する必要があることを意味しています。ヒスパニック系の人々は、おそらく十分な所得を得ることができないため、貧しい生活をし、あらゆる差別や困難を経験する可能性が高いと言えます。

私が教えているこどもたちに比べ、この社会の中で私が白人だという事実は、私がそれを望むかどうかに関わらず、特権と利益の一つです。私自身が幼い頃に固定観念を持っていたのと同様に、私のこどもたちもアジアに関する固定観念をもち、それを面白がっていると感じました。ある一定の民族やグループに対する偏見を認識し、固定観念を持たないよう視野を広げることは、今後の人格形成において非常に重要だと思います。

個人の幸福は、必ずしも社会全体の幸せを反映しているわけではありません。しかし、個人の幸せのために働くことは、最終的に社会全体の幸せをもたらすことでしょう。個人に焦点を当てることは簡単ですが、確実に社会全体の幸せに貢献する方法のひとつだと思います。もし社会全体だけに焦点を当ててしまえば、その中に住む個人の幸せは満たされることはありません。この概念を私たちのクラスに活かすということは、まさしく、こどもたちが日本文化についてより深く学ぶことにつながります。小さなグループを教えることに焦点を当てることで、彼らが学んだことを、それぞれの地域社会で彼らの友人や家族に影響を与え、共有していくことを願っています。しかしながら、彼らがある特定のグループに対して持っている固定観念が間違っている場合には、私たちはそれらについて説明する責任があります。

ヒスパニック系の人々は、他の民族グループに比べ、偏見だけでなく、貧しい生活を強いられる可能性が非常に高いです。実際に、サリナスのコミュニティでは、多くのこどもたちが学校生活に必要な教材を買う余裕がありません。私たちは教える側の立場として、これらの問題を認識し、なんらかの対処することが重要です。例えば、私たちは大学生として、授業に必要なものをそろえるの

に正当な額の収入があります。すべての学生が貧しさや能力の高さに関係なく平等に扱われるべきだと思います。これらの考え方を実践することで、こどもたちに平等の価値感と道徳の大切さを教えることができます。

私たちの学校のコミュニティを多文化するためには、こどもたちが日本文化についての学習するのと同様に、私たちも彼らの文化についてできる限り積極的に学ぶことが最も重要です。このような相互関係は、多文化への理解と海外の文化への寛容さを助長します。こどもたちが彼らの伝統（この場合はヒスパニックの文化）を共有したいという意欲を見せたときには、かならず耳を傾け、興味や関心を示すことが重要です。お互いの文化を受け入れることは、私たちの暮らしている世界に存在する多様な文化への理解につながります。そもそも世界の文化のあり方は多様であり、ある一つの社会内部でもみんなが同じ文化を持っているわけではありません。このCPYプログラムは、私たち教師およびこどもたちに、食文化や習慣、言語、宗教などが異なる民族グループにも常に対話を心掛け、自分が属する以外の民族グループに対する偏見が何に基づいているのかを冷静に見ていく、そして私たちのもつ固定観念をとらえ直すいい機会になったと信じています。多文化が共生する社会を実現するうえでもっとも重要なことは、相手の文化を尊重することです。そのためには、相手の国や民族への知識と理解が欠かせません。偏見・固定観念は、風聞や伝聞といった観念的なもので形成されることが多いものですが、このCPYプログラムのように実際にその国で生活した人と会って話してみるといった体験が大切になります。多文化が互いに認め合いながら共生していくことが、豊かな将来につながります。